



Profile
No.2

未来は とても楽しい 與世田 温子

與世田 温子

よせだ あつこ

公認会計士

平成18年 熊本大学理学部卒業

平成19年 公認会計士試験合格

監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所

株式会社willsi株式会社設立 取締役就任(～現在に至る)

平成24年 「複雑な社会をシンプルに」をコンセプトに、スマートフォンアプリの開発をはじめとした会計教育関連事業を営む

公認会計士を目指そうと思ったきっかけを教えてください。

大学時代、いつか起業したいと思いました。そのころはソフトバンクの孫社長が会社をどんどん大きくしていく姿がよくクローズアップされていたこともあり、自分の力でどこまで会社を経営できるのか知りたかったことと、たくさんの人に喜んでもらえるような仕事をしたいと考えたからです。

理科が好きで、大学は理学部を選んだ私には、どうすれば起業できるか、どのような業種があるのかなど、知らないことがたくさんありました。そんななかで「公認会計士になれば社会のことがよくわかるのではないかと、私と後の夫にアドバイスをくれたのは、義理の父でした。二人で一緒に公認会計士を目指し、運よく同じ年に合格することができました。

若手時代に苦労したことはなんですか。

監査法人に入所してすぐ、システム監査部門に配属されたため、システム監査と国内監査の業務を半分ずつ行っていました。システム監査についての勉強はしていたのですが、実際にクライアントのシステム部門の方とお話すると、知らない専門用語が多く苦労しました。先輩がシステム部門の方とお話している横で、こっそり専門用語を調べたりして少しずつ身に付けていきました。

公認会計士人生でのターニングポイントを教えてください。

監査法人を退職し、起業したときです。監査法人での仕事はとても面白く、監査法人と一緒に働いていた人も尊敬できる人ばかりで、このまま監査法人にいたいという気持ちも少なからずありました。ですが、修了考査の後、いよいよ公認会計士として登録できるというタイミングで、起業の夢を実現させることにし

ました。監査法人を退職する前の1年間で、休日に夫とビジネスモデルを100個以上出し合う中で、平成23年当時スマートフォンはまだまだ伸びる市場だと感じていたことから、スマートフォンのアプリを開発する会社を作りました。

最初に作ったのは「パプロフ簿記3級」という仕訳練習アプリです。簿記3級という誰でも簡単に合格できるイメージかもしれませんが、しかし、公認会計士業界を離れると、実は簿記3級2級の取得に非常に苦労している方が多いということに気づき、簿記のアプリなら公認会計士である自分の知識や経験を生かすことができると考えました。プログラミングの勉強は退職後に独学で始めました。本を10冊買ってきて、読んで、書いてあるとおりに作業をしてみても…を繰り返したのですが、プログラミング経験ゼロの私にとってはとても難しく、本当にアプリができるのか不安になりました。不安を抱えながらも毎日プログラミングに取り組んだ結果、1か月後にはアプリが完成しました。

パプロフはアプリに登場する犬のキャラクターで、名前の由来は「仕訳は条件反射だ」という考えからです。イラストを描くのも好きで、アプリのイラストは自分で描いています。そうして誕生した「パプロフ簿記3級」は自分の想像を超えるダウンロード数となり、たくさんの人に使ってもらえたことがとてもうれしかったのです。

現在のお仕事について教えてください。

スマートフォンのアプリを開発する会社を運営しています。また、簿記のテキスト執筆、webでの解説、簿記に関するブログなど、簿記教育全般も行っています。簿記教育をしている会社はたくさんありますが、弊社が他の会社さんと違うのは、公認会計士が作る・教えるということで、受験や実務の経験に基づいた教え方ができること、最新論点にもすぐに対応できることです。また、自分でイラストやマン

ガも描いているので、見た目でもわかりやすい説明が好評を得ています。

アプリだけでなくテキストも書いているのは、アプリは仕訳のトレーニングには向いていますが、もっと体系的な簿記の仕組みを伝えるには紙面にした方が良かったからです。アプリと同じパプロフの4コママンガでテキストの素案を作り、興味を持ってくれそうな出版社を30社ほど自分で調べてリストアップし、上から順番に持ち込みの電話をかけました。たまたま1番初めに電話した出版社に興味を持っていただき、テキストを出版することができました。プロの編集者、デザイナーから文章やイラストの指導をもらえるのは非常に良い経験ですが、4コママンガのオチが思い浮かばずに、いつも苦労しています。

会計の知識は、実は生活で役に立つ知識です。例えば複利計算の考え方を少しでも知っていれば、クレジットカードの支払いを必要もないのにリボ払いにして高い金利を払うこともありません。私は、「公認会計士は最先端の会計業務だけでなく、簿記教育に従事する人がいても良いのではないかと、それが日本全体の会計のレベルアップにつながるのではないかと」考え、今に至っています。

会社経営について、監査法人勤務との違いを教えてください。

監査法人勤務から変化したことは、まず通勤がなくなったこと。それから、組織の中にと必ずすべき報告や作業がなくなったことで、体力的には楽になりました。一方で、失敗の責任はすべて自分にあるので、プレッシャーやストレスを感じることもあります。

また、会社は夫と共同で経営しているので、夫がiPhone、私がAndroidのプログラミングをしたり、私がイラストを描いている間に夫が問題を作成するなど、分業しています。夫婦で仕事をする上で日頃心がけていることは、「気を遣うこと」と「細かいことは気にしないこと」です。「気を遣う」といっても、他人行儀という意味ではなく、言われたら嫌だろうなという

ことは言わないとか、ありがとうとごめんなさいは言うとか…当たり前のことですが、お互いがずっと気持ちよくいられたらいいなと思って行動しています。

やりがいを感じるのはどんな時ですか。

年3回ある簿記試験の合格報告が一番うれしいです。テキストやアプリを使ってくれた方から「とてもわかりやすくて、合格できました」と言ってもらえると、様々な苦労が吹き飛びます。

最後に若手・受験生へのメッセージをお願いします！

未来はとても楽しい、という希望を伝えたいです。自分の高校・大学・受験時代を振り返ってみると、勉強ばかりで退屈・窮屈と感じていたように思います。大人になった今、自分で稼いだお金で行きたいところに行きたいことができるのはもちろんですが、もっと大きな感動があります。それは、自分がした仕事、自分が作ったもので、たくさんの人に喜んでもらえることです。もし同じように退屈・窮屈と感じている方がいたら、希望を持って、目の前のことに取り組んでほしいです。

最近、公認会計士や学生の方から、起業したいという相談をよく受けます。若い人にとって起業が将来の選択肢に入るのは、多様な生き方が広がっていて、とても良い時代だなぁと感じます。起業を考えている人にお伝えしたいのは、学校や監査法人など組織の中にあるときにも「人」と「経験」を大切にほしいということです。私自身、監査法人時代の先輩から「元気でやってる?」と連絡をいただけるのはとても心強いです。また、監査法人で得た経験や、趣味で描いていたイラストまでも役に立っています。

将来やりたいことを考えることと、目の前の一歩を一生懸命すること、ぜひ両方やってみてください。ストレス解消も忘れずに！

(取材・編集)日本公認会計士準会員会
実践躬行チーム